



聖徒のための情報誌

今月号の内容

法華經の行者、日蓮大聖人の御教え(1面)
よろこびちゃんの質問箱
一日伝道(埼玉・島根)(2面)
日蓮大聖人の歩まれた道
法華經のお話(3面)
全国のよろこびちゃん
よろこび法話(4面)

平成26年(2014年)11月1日(土)
11月号

発行所
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-25-11
九段中央ビル702
日蓮宗靈断師会九段事務所
電話 03-6272-9340
FAX 03-6272-9341

日蓮宗靈断師会

会長 末吉 観道
編集人 松本 恵昌
購読料 1部 100円(税別)
毎月1回1日発行

日蓮宗靈断師会ホームページ
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp
よろこび投稿メール
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

法華經の行者、
日蓮大聖人の御教え



日蓮宗靈断師会 終身名誉顧問
島根県出雲市妙本寺聖徒団団長
吉田 亮善

日蓮大聖人六十一年のご一生は、「大難四ヶ度小難数知れず」と云われるように忍難慈勝のご生涯でありました。

文応元年(一二六〇)七月十六日(聖壽三九歳)に「立正安国論」を幕府に上奏されて以来、同年八月二十七日の松葉ヶ谷の焼き討ちにはじまり、弘長元年(一二六一)五月十二日(聖壽四十歳)の伊豆ご流罪、文永元年(一二六四)十一月十一日(聖壽四三歳)の小松原のご法難、文永八年(一二七二)九月十二日(聖壽五十歳)の龍の口のご法難とこれに続く佐渡ご流罪が四ヶ度の大難であります。

今月の十一日は、小松原のご法難の聖日であります。
前年の二月に伊豆ご流罪を赦免された大聖人は、望郷の念おさがたく、また、慈母の恩愛忘れがたく恋しいと、文永元年の秋に故郷安房の国へお帰りになります。

『日蓮この法門の故に怨まれて死なん事は決定なり。今一度、奮里へ下って親しき人々をも見ばやと思ひて、文永元年甲子十月三日安房の國に下って三十餘日なり』(波木井殿御書)

しかし、我が家に帰り着くと、懐かしい母は息を引き取られたところでありました。



この時、大聖人は母上の為に護符をしたため、一心不乱に法華經誦誦と唱題三昧に祈請なされ、不思議にも母上は蘇生されたのでした。『法華經を行じて定業を轉ずる事は秋の稲米、冬の菊花、誰か驚くべき。されば日蓮悲母を祈りて候ひしかば、現身に病を癒すのみならず四箇年の壽命を延べたり』(可延定業書)

大聖人と母上は共に涙ながらに手を取り、懐き合われたことでありましょう。母上の蘇生から数日、大聖人は、看病、また親しき人々と語り、恩師道善御坊ともお会いになりました。この時、道善御坊は「自分は何も分からぬ田舎の僧であつて、阿弥陀仏の像を五體造り、只、今迄通り南無阿弥陀仏と唱えるだけだ」と語り、大聖人は恩師に逆らうは無礼とは知りつつも、「法華經に我が為には、釈迦牟尼仏は親父、阿弥陀は伯父と説かれております。伯父を大事にして、親父を蔑ろにするのは、地獄の業となりますから、お止め下さい」と申されましたが、ますますお別れになるしかありませんでした。

然し後年、道善御坊は、念仏を捨て法華經に帰依なされたと、大聖人もお喜びになつておられます。
こうして故郷での日々をお過しであった大聖人は、安房の国天津の領主工藤吉隆公の請いをいれ、天津へ向かわれる途中、東条景信を大将とする念仏信者の集団に襲撃を受けるのです。

『今年も(文永元年)十一月十一日、安房の國東條の松原と申す大路にして、申酉の時數百人の念佛等に待ちかけられ候て、日蓮は唯十人ばかりにて、もの用に合ふものはわずかに三、四人なり。射る矢は降る雨の如し



打つ太刀はいなづまの如し。弟子一人は当座に打取られ、二人は大事の手にて候。自身も斬られ打たれ、結句にて候ひしほどに、如何が候ひけん打ち漏らされて、今まで生きてはべり、いよいよ法華經こそ信心まざり候へ』(南条七郎殿御書)

この小松原のご法難で、弟子の鏡忍房、工藤吉隆公は殉死なされました。また大聖人は眉間に傷を蒙りましたが、二の太刀を打たんとした東条景信は、虚空に現われた鬼子母大善神の発する稲妻のごとき光に眼がくらんでドーッと馬から落ちて正氣を失つたと伝えられます。

この後、工藤吉隆公の子で大聖人の弟子となつて手塩に掛けて養育された長栄日隆上人が小松原の地に建立されたのが、小松原山鏡忍寺であります。
大聖人はこのご法難によって、『日本國に法華經を読み學する人これ多し。人の妻をわらひぬすみ等にて、打ちはらるる人は多けれども、法華經の故にあやまたるる人は一人もなし。されば日本國の持経者は未だ此の経文には合わせ給はず。唯日蓮一人こそ讀みはべれ。《我不愛身命但惜無上道》是れなり。されば日蓮は日本第一の法華經の行者なり。一中略日本第一の法華經の行者日蓮房の弟子なりとならせ給え』(南条七郎殿御書)

と、ご自身を法華經の行者とご自覚なさると同時に、我々大聖人の御教えを頂く者にも、法華經の行者になれと勧奨されておられます。法華經の行者は必ず守護されるのであります。

九州各地より「もつと悩める人の為に力をつけたい!」という思いで手弁当で集結した靈断師は、「運命観」という仏教の基本理念である人の運命の仕組みについて講義を受け、靈断によって人々を救つていく極意を共に研鑽し理解を深めました。

来年の「身延大会」は第50回記念大会!!



5月23日(土)
・24日(日)

来年の身延大会について

例年五月の身延大会の時季は、日蓮宗寺院の団体参拝のほか、多くの宗教団体の参拝が見込まれます。
来年の身延大会(第五十回記念大会)に参加を予定する聖徒団の皆様は、宿泊先である宿坊・旅館等に早目のご予約をお願い致します。
宿泊先を特定出来ない聖徒団の皆様は、『日蓮宗靈断師会・九段事務所』までお問い合わせ下さい。

「九州教区教学・靈断法研修会」を開催
九識靈断法で悩める人達を救っていきましょう!



小泉輝泰講師(本部靈断院教学部長)

す。御題目を信じ、唱え、行ない、ご本仏さま同性・同名の俱生神さまのご守護を自ずから頂く信仰が私達の法華經信仰。是れが法華經の行者として生き切る事なのです。

津軽宇田山 間法寺
毎朝 5時半より「朝勤祈禱会」
毎月 最終日曜日「盛運祈願会」
〒030-1403
青森県津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2
TEL 0174-25-2712
住職 工藤 堯幸
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

妙正寺聖徒団 眞鍋 勇
11月16日 午前8時30分より
第11回 清道衆信行講習会。
毎月1日午前10時 盛運祈願会
妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄
〒071-1423
北海道川上郡東川町東町2丁目6-3
TEL 0166822714 FAX 0166822914

いかされるよろこび
美濃乃國
常唱寺 聖徒団
〒501-3734
岐阜県美濃市千畝町2738-2
TEL/FAX 0575(33)1430

本山 妙頭寺
天目聖人御報恩
平成屋根等大改修
ご寄付募集中!
郵便振替
口座番号 00180-6-267327
口座名義 妙頭寺建設委員会
〒327-0843 栃木県佐野市堀米町264
TEL 0283-22-1524
FAX 0283-22-4194
http://www.sano-myoukenji.jp

日蓮宗靈断師会終身名誉会長
感通寺聖徒団団長
新聞 智雄
〒162-0044
東京都新宿区喜久井町39
TEL 03-3209-8782
FAX 03-3208-7966

各地で一日伝道を開催

島根県浜田市龍泉寺「一日伝道」

八月十八日、島根県浜田市龍泉寺聖徒団(笹部一眞団長)に於いて、本部教務部指導課長・新聞信應講師による一日伝道が開催された。

当山のお施餓鬼法要でご先祖様に供養を捧げた後、供養の大切さ、人と繋がりを持つことの大切さを優しい言葉で話した新聞講師。泣いたり笑ったり、感動の一日伝道となった。



近堂 清子

新聞上人のお話は大変分かり易く、私達の心に残る有難い法話でした。私は、もとは他宗でしたがご縁あって二十年余りに日蓮宗に改宗し、毎日お寺でお題目修行をさせて頂いています。三年前に脳梗塞で倒れ、一時は命も危なく、治っても普通の生活をするには無理だろうと言われていましたが、お蔭で後遺症もなく日常生活が出来るようになりました。本当にお題目の有難さを痛感した体験でした。



分かりやすく信仰を語る新聞講師



お塔婆を立て、ご先祖様に供養を捧げる

へ通い、ご奉仕をさせて頂いたり、唱題を続けていくことを喜びにしたいと思えます。



下野 良野

「信心の仕方について」とてもわかりやすく感動的なお話をさせて頂きました。火の如くにはあつと燃えて消える信心の仕方ではなく、水のようにたゆまなく流れる如くの信心でなければいけない。これからもお世話になりました皆様へ感謝し、教えを守り、他にもすすめ、残された命を大切に日々精進してまいります。そして「親から子へ、子から孫へ」法華経を護持継続していく信仰をしていきたいと思えます。本当にありがたいお話をありがとうございました。

埼玉県川口市実相寺「一日伝道」

遠路はるばる宮崎県から、靈断師会教宣部出版課長の吉田憲由上人に、埼玉の地まで御法話に来ていただきました。當山の施餓鬼会は、毎年八月十七日に行われます。今年は日曜日に当たっており、いつも以上に檀信徒の皆さんが参集致しまし

た。最終的には百五十人もの方々が、吉田上人の御法話をお聴きになったようです。ご自身の僧侶になる体験を本にした御法話でした。

「若い頃、路上でライブ演奏をしていた際に、その演奏に心がこもっていないと、人は素通りしてしまうが、心のこもった演奏をしていると、何故か多くの方々が立ち止り、自分の演奏を聴いてくれる。やはり、心をこめることが何よりも大切なことなのです。これは宮崎県の自坊での、教化救済活動にも役立つと思います。」とお話し下さいました。

當山の檀信徒に感想をお聴きしたところ、「仕事にしても、家事にしても、子育てにしても、やはり、心をこめることが何よりも大切なですね。」と多くの方々が述べておられました。

また、俱生神月守の大切さも法話の中でお伝えいただき、新たに三十体ほどおわけ致しました。さらに、毎月の盛運祈願会に出席したいという方が五人もおられ、お題目の結縁が出来たようです。好評を博した御法話でした。吉田上人には、お暑い中わざわざおいでいただき、まことにありがとうございました。

実相寺聖徒団 松永慈弘

聖徒の声(感想文)



竹山 敏子

実相寺施餓鬼会に参加した折、吉田上



吉田憲由講師(本部教宣部出版課長)

人の御法話を聴く機会がありました。お話の内容は吉田上人の若い頃のものでした。僧侶となるために修行しましたが、あるきっかけから僧侶として生きていく道をやめ、勘当同然で家を出てしまった吉田上人。しかし勘当したとしても親は子のこと心配だったのでしよう。俱生神月守というお守が、毎月毎月送られてきたそうです。そのお守を大切な人に渡し、身につけてもらおうとしたことでも親は子のこと

よろこび歳時記



長崎県 妙光寺聖徒団 楠本 霽昇 団長

神仏を尊び、天を敬い、まわりを慈しみ、そして自分を育む。私たちがすべての人が持っている心という大宇宙を今一度見つめ直してみませんか。ここに一冊のエッセイ集があります。

これは著者が天からの声を聞き集めて書き下ろした冊子です。著者の田中愛子さんは、妙光寺の檀家となられた方です。是非、この本を手にとってお読みください。著者は「忘れがちな大切なことを思いださせるきっかけになりますように」と願っております。

天から届いた「まごころ」、「心」を繋ぐこと、人への「優しさ」と題名と副題が付いております。とても心洗われる優しく読みやすい本です。

ご一読をお勧め致します。そして周りの方々にも是非ご紹介下さい。天から届いた「まごころ」 田中愛子著(文芸社)

けてもらうことでその大切な人を守ってもらうのと同時に、自分のその人へ向ける思いも一緒に渡せるのではないのだろうか、と両親は思ったのだと思います。実は、私は小さい頃から俱生神月守を母親から渡され、ランドセルにつけておりました。今考えてみると、吉田上人同様に、親が子を思う気持ちの現れだったのだなと思います。

よろこびちゃんの質問箱



よろこびちゃん

枕飯ってなに? 亡くなった方の枕元のご飯に箸を立てるのはどうして? 確かに、枕経のときなどは、枕元のご飯に箸を立てることが多いわよね。

昔はお米がすごく高価で、たくさんは手に入らなかったから雑穀やおかゆが主食だったの。だから、山盛りの白いご飯というのは大変なご馳走だったのよ。亡くなった方に、最高のご馳走をお供えして、感謝とご供養の気持ちをお伝えしたのね。

でも、そんな時代に家族の者が亡くなったとき、すぐに茶碗一杯の白いご飯なんて用意できないで



身延大会に行ってきました!

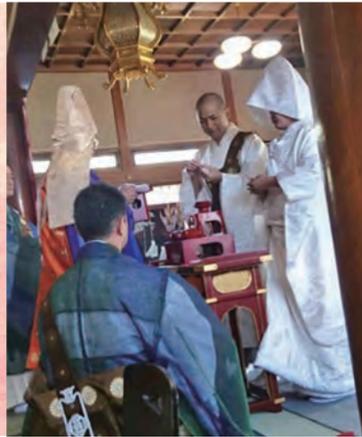
その5



千葉県顕本寺聖徒団 小泉隆一さん(写真手前)

身延大会の参加は、もう三十回以上になります。年に一度の心清まる日。感動の一日。毎年楽しんで来ています。「今年も行ける!」の想いが励みとなり、支えとなって参加できています。もちろん来年の第五十回大会も顕本寺のみならず来ますよ。とても楽しみにしています。※今年七十五歳になられる、身延大会のベテランさんでした。(編集部より)

長野県霊断師会 小島一洋会長 御結婚



九月十三日、長野県上田市長光寺聖徒団御宝前に於いて、経蔵寺院首中田顕宏僧正式長の下、新郎小島一洋上人、新婦由美子さんの仏前結婚式が執り行われた。

仏前結婚ならではの念珠授与を始め、誓いの詞では苦楽を共にし、幸せな家庭を築いていく決意が述べられた。

佛祖三宝の前にて盃礼を交わした両人は、素晴らしい佛縁に感謝すると共に、これから車の両輪の如く息を合わせ協力していこうと、より絆を深めた。寺族・親戚に見守られながら、日蓮宗の法式に則り厳かに執り行なわれた仏前結婚式は、本堂内に祝福のお題目が響き渡る中、無事納められた。

通信員 永田完英

第三十九回 日蓮大聖人の歩まれた道

比叡山での修学

霊断院教学部長

小泉 輝泰

「三塔事。中堂。伝教大師の御建立。延暦年中御建立。王城の丑寅に当る。止観、遮那の二業を置く。本尊は葉師如来なり。桓武天皇の御崇重。天子本命の道場と云ふ。(中略)是を東塔と云ふ也。西塔。釈迦堂。宝幢院。伝教の御弟子、円澄の建立。横川。観音堂。楞嚴院。慈覚建立」

(真言七重勝劣)

ここで改めて蓮長の学んだ比叡山についてお話を致しましょう。伝教大師最澄は、延暦七(七八八年)、当地に一条止観院と呼ばれる草庵を結びました。これが今に続く比

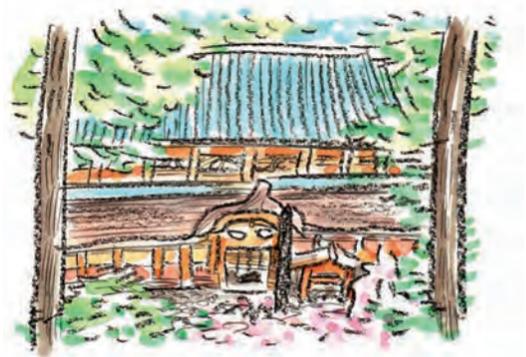
叡山延暦寺の始まりとされ、やがて中央に葉師堂、その左右には経蔵や文殊堂といった様式の伽藍、いわゆる根本中堂が築かれ、これを総称して比叡山寺と呼ばれていました。中央の葉師堂に納められる葉師如来は、伝教大師が一刀三礼して刻んだと伝えられ、比叡山の秘佛中の秘佛とされています。最澄がそのご寶前に灯火を供えて以来、その明かりは



一二〇〇年もの間絶えることなく灯り続け、「不滅の法灯」と呼ばれているのです。

後に五代座主であった円珍が、仁和三(八八七)年に九間四面の堂として根本中堂を再建し、正面中央の五間が葉師堂、その南側二間に経蔵、北側は文殊堂といった寺観となりました。その後も寛文年間(一六二四〜一六四三年)に改築がなされるのですが、円珍の定めた様式は現在まで伝わっているとされています。蓮長が比叡山を訪れた時も、おそらくこのような根本中堂の姿であったことでしょう。

伝教大師の没後である弘仁一四(八二四)年に、嵯峨天皇より延暦寺の寺号が下賜されました。これによって、今に知られる比叡山延暦寺の名称となったのです。もともと、現在でも寺号である「延暦寺」よりも、「比叡山」または「叡山」の山



号の方が皆に親しまれているのはご存じの通りです。なぜ寺号が通称としてあまり用いられないかといえれば、ある種独特なその形式にあるのかもしれない。

実は一般的にイメージするような単独の寺院ではありません。伝教大師は、弘仁九(八一八)年に日本国内の六カ所に宝塔院を建立しました。これを「六所宝塔」と呼びますが、その内の二塔が畿内の山城宝塔(比叡山の山城国境)と、近江宝塔(同山の近江国境)であり、「叡山の東西両塔」と呼ばれています。後に前述の円珍が横川に根本中堂を築き、これら三箇所を根本中堂を構える東塔、西塔中堂(釈迦堂)を有する西塔、根本観音堂のある横川として、三塔十六谷の内に数多の堂塔を構え、それらの総称を「比叡山延暦寺」とするのであります。そしてこの三塔を中心として、比叡山の護持や大切な天台座主の選定などを協議する、独特の三塔制度が次第に整えられて行きました。それはまた、比叡山の特色でもある三塔の学風にも繋がって行くものでした。

法華経のお話 ③7

霊断院主任 塩入幹丈

無量義経の段

大轉輪王小轉輪王。金輪銀輪諸轉輪王。(無量義経徳行品第一)

日本人より優れている人びとは、異教徒の間には見いだすことができない

(フランシスコ・ザビエル) 基督教による日本侵攻の先鋒と言え、髪の毛フサフサなのに敢えて頭頂だけは剃髪という不思議なヘアスタイルでも有名な、聖人フランシスコ・ザビエルです。

そのザビエルが(カトリックにおける)日本の守護聖人と定めたのが、かの有名な熾天使ミカエル(なぜか今はザビエル自身が日本の守護聖人ですが)です。このミカエルは、警察官や救急隊員の守護者であり、ま

たお菓子職人の守護者(故にミカエルの縁日、九月二十九日は洋菓子記念日だそうです)にして、やがて来るといふハルマゲドンにて、悪魔の化身たる邪龍を打ち倒すものとして有名な大天使です。

そんなミカエルこそが、唯一神に仕える全ての天使たちの頂点に立つ、大天使長とされています。火・風・水・地の四大元素中、火を司る天使ゆえに、眩い耀きを放ち、上へ上へと上昇することが、頂点に立つに相応しいイメージなのでしょうね。

実はこの「火」という元素の重視は、佛教においても同様なのです。

俺のこの手が真つ赤に燃えるう！ 勝利を掴めと、轟き叫ぶう！ (ドモン・カッシュ)

佛さまのお使いとして、衆生救済に当たられる存在と言え、ご存じ



是の菩薩衆の中に四導師あり。一を上行と名け、二を無辺行と名け、三を浄行と名け、四を安立行と名け。是の四菩薩其の衆中に於て最も為れ上首唱導の師なり。(妙法蓮華経地涌出品第十五)

菩薩さま。文殊菩薩、観音菩薩、地藏菩薩等々、数多の菩薩方がいようと、その頂点を極めるのが、日蓮大聖人の前世たる上行菩薩であることは、日蓮佛教を学ぶ者なれば常識中の常識でしょう。

似ているのは、トップだけではありませぬ。上行菩薩に続くのは、風の属性たる無辺行菩薩、水の属性たる浄行菩薩、地の属性たる安立行菩薩(もともと四大菩薩と四大元素の関係は、法華経そのものには明示はされていませんが...)ですが、これってミカエルに続く熾天使たち、風のラファエル、水のガブリエル、地のウリエルと、その属性も序列も全く同様、ピタタンコ・カンカンなんですね。

もつと有名になりたい！ (松島 彩)

片やいつの日か天界より舞い降りて、悪しき人類を殲滅する存在。片や大地の奥底から湧き出でて、全ての衆生をお救い下さる存在と、その役割は全く真逆な立場ではあっても、共に神や佛といった至高の存在よりのお使いです。

だからでしょうか、四大天使と四大菩薩には、その特性、人数、序列等々と、共通点が多いところが、何ともはや意味深ですね。もつとも、カトリック教徒以外にも有名な四大天使と比べ、四大菩薩



の一般的な認知度の低さは、異常とも言えるほどです。これでは「日蓮大聖人は本化上行菩薩の再誕」と言っても、他教他宗未信無信心の方々にとっては、何のことやらで終わっちゃいますよ。これは我ら日蓮門下一同も、よく反省すべき点でしょうな...

